

第4節 勉強の方法

1. 勉強の仕方

【第1回調査と比べると、次のような変化がみられる。①「問題集の問題を解く」の増加(68.0%→75.1%)、②「辞書を引く」の減少(75.8%→64.3%)、③「教科書をくり返し読む」の増加(47.7%→56.7%)、④「教科書や参考書を整理して自分のノートを作る」の増加(35.1%→47.2%)、⑤「教科書ガイド・レーダーを使う」の減少(44.2%→30.2%)、⑥「市販の単語帳・単語カードを暗記する」の減少(15.5%→8.7%)。】(図1-29、表1-6)

Q3

家での勉強についてうかがいます。
(学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます)

D. 家では、どんな勉強の仕方をする人が多いですか。次の1)～10)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

第2章で述べるように、高校生の学習をめぐる最大の悩みの1つは、上手な勉強の仕方がわからないことである。そこで、今回の調査では家でどんな勉強の仕方をする人が多いのかを尋ねてみた(図1-29)。

高校生の半数以上が「よくする」「時々する」と答えているのが、①問題集の問題を解く(75.1%)、②教科書や参考書にアンダーラインを引いたり、カラーマーカーを塗る(64.3%)、③辞書(英語・国語など)を引く(64.3%)、④教科書をくり返し読む(56.7%)の4つである。参考書を読む(42.6%)よりも問題集を解くこと、単に教科書をくり返し読むよりもアンダーラインをつけたり

マーカーを塗りながら読むという勉強方法のほうが一般的である。

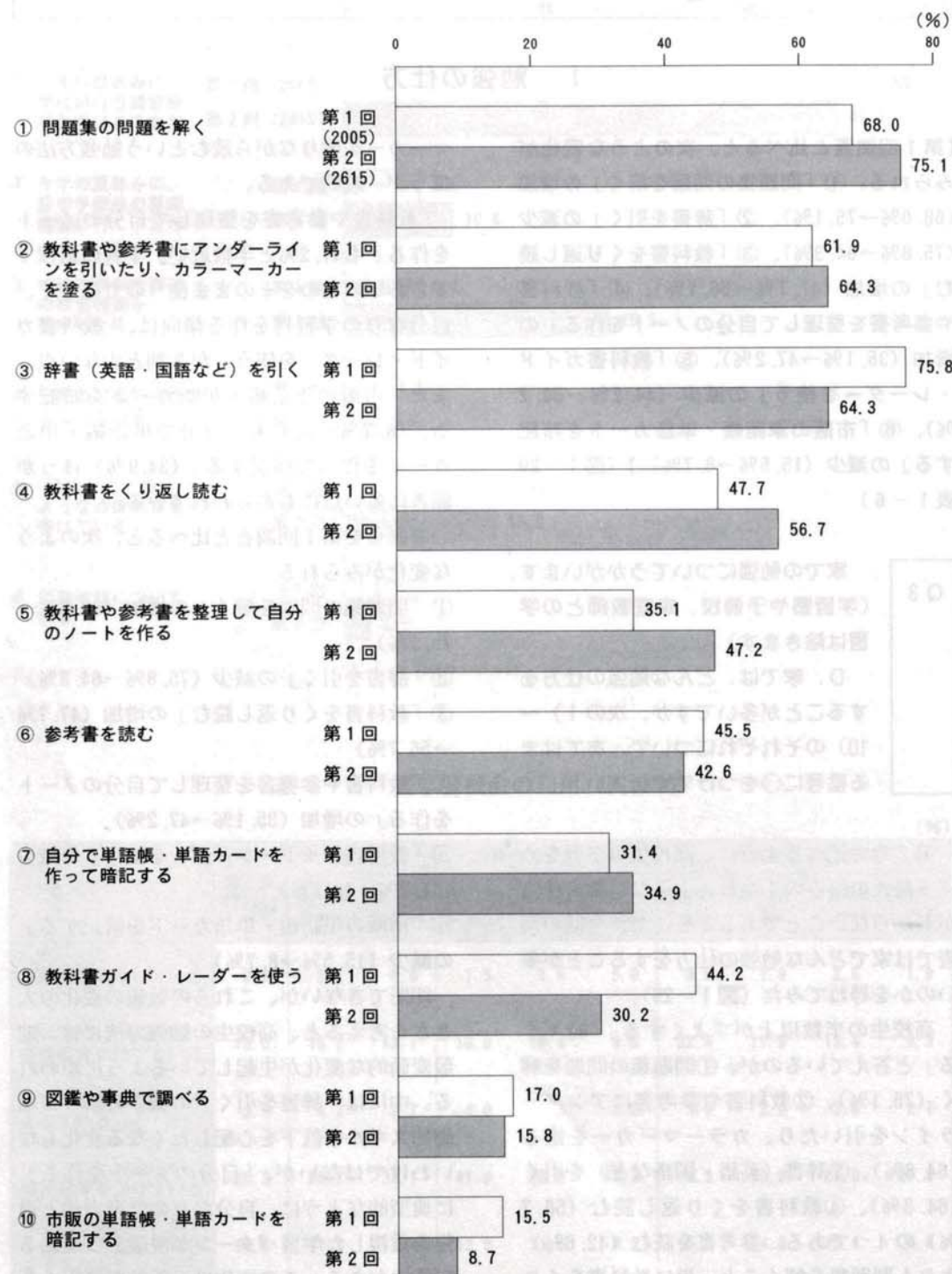
「教科書や参考書を整理して自分のノートを作る」も47.2%と半数近い。学習の過程でできあいのものをそのまま使うのではなく、自分なりの学習材を作る傾向は、「教科書ガイド・レーダーを使う」が3割と少ない点、また「市販の単語帳・単語カードを暗記する」(8.7%)よりも「自分で単語帳・単語カードを作って暗記する」(34.9%)ほうが顕著に多い点にもあらわれている。

これらを第1回調査と比べると、次のような変化がみられる。

- ①「問題集の問題を解く」の増加(68.0%→75.1%)
- ②「辞書を引く」の減少(75.8%→64.3%)
- ③「教科書をくり返し読む」の増加(47.7%→56.7%)
- ④「教科書や参考書を整理して自分のノートを作る」の増加(35.1%→47.2%)
- ⑤「教科書ガイド・レーダーを使う」の減少(44.2%→30.2%)
- ⑥「市販の単語帳・単語カードを暗記する」の減少(15.5%→8.7%)

即断できないが、これらの数値の変化の大きさを考えると、高校生の勉強方法には、地殻変動的な変化が生起しているように思われる。中には「辞書を引く」の減少のように基礎的スキルの低下を心配したくなる変化もないわけではないが、「自分のノートを作る」に典型的なように、自分なりの学習方法と過程を重視した学習パターンが浸透しつつある可能性がある。この変化は、新教育課程や新しい学力観の影響だという解釈もあり得る。

図1-29 家での勉強の仕方(第1回との比較)



注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。
注2) ()内はサンプル数。

高校の進学状況別にいくつか特徴がみられる(表1-6)。「参考書を読む」「辞書を引く」「問題集の問題を解く」といった特徴があるのは、超進学校、進学校の生徒であり、逆に「教科書や参考書を整理して自分のノ

トを作る」は準進学校、就職進学校で多くなっている。どちらかといえば、伝統的な受験勉強のパターンは、進学者の多い高校でなお支配的である。

表1-6 家での勉強の仕方(高校の進学状況別)

	超進学校 (652)	進学校 (309)	準進学校 (925)	就職進学校 (729)
教科書をくり返し読む	58.7	49.5	57.9	56.4
教科書や参考書にアンダーラインを引いたり、カラーマーカーを塗る	60.9	70.5	65.4	63.3
参考書を読む	54.5	48.2	40.9	31.5
辞書(英語・国語など)を引く	77.5	71.2	61.6	53.1
図鑑や事典で調べる	19.6	17.8	15.2	12.6
教科書ガイド・レーダーを使う	43.2	27.8	26.4	24.5
問題集の問題を解く	80.5	76.7	73.9	71.0
教科書や参考書を整理して自分のノートを作る	39.2	37.2	52.9	51.3
自分で単語帳・単語カードを作って暗記する	34.9	29.1	39.6	31.4
市販の単語帳・単語カードを暗記する	11.9	15.6	6.9	5.2

注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。
注2) ()内はサンプル数。

2. 勉強方法のタイプ

【全体としてみると、①通信教育、学習塾の教材や自分で買った教材中心(6.5%)よりも学校で使う教材中心(92.8%)、②市販の要点整理などを使う(11.7%)よりも自分で整理しながら勉強する(87.4%)、③毎日こつこつ勉強する(14.1%)よりも試験の前にまとめて勉強する(85.5%)タイプが支配的である。④参考書中心(29.3%)に比べて問題集中心(69.9%)でもある。⑤できるだけ暗記しようとする(56.5%)か、できるだけ考えようとする(42.9%)かは相半ばしている。進学者の多い高校で相対的に多いのは、①(試験前にまとめてよりは)毎日こつこつ勉強、②(できるだけ暗記するよりは)できるだけ考える、③(復習中心よりは)予習中心、④(やさしい問題を数多く解くよりは)難しい問題をじっくり考える、などのタイプである。】(図1-30~33)

Q3

家での勉強についてうかがいます。(学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます)

E. あなたの勉強の仕方を分類するとすれば、どんなタイプになると思いますか。ア~ケのそれぞれについて、どちらかといえば近いほうのタイプに○をつけてください。(1か2のどちらか近いほうの番号に○をつけてください)

高校生の勉強の仕方を明らかにするために、やや変わった設問方法を試みた。2つの勉強の仕方をペアにして(たとえば「問題集中心」と「参考書中心」)、そのどちらのほうに自分が近いのかを強制的に分類させる方法である。

回答傾向から次のようなことがわかる(図1-30)。

〈回答が一方に偏るタイプ〉

ペアにされた勉強方法のうち回答が一方に偏ったのは次のものである。これらについては、高校生全体について一方の勉強方法が支配的であるとみることができる。

- ①通信教育、学習塾の教材や自分で買った教材中心(6.5%)よりも学校で使う教材中心(92.8%)
- ②市販の要点整理(11.7%)よりも自分で整理しながら勉強する(87.4%)
- ③毎日こつこつ勉強する(14.1%)よりも試験の前にまとめて勉強する(85.5%)

これらを要約すると、学校で使う教材を中心に、試験の前にまとめて、自分で整理しながら勉強する方法が、支配的であることがわかる。

〈一方の回答が多いものの、圧倒的多数ではないタイプ〉

上記3ペア以外は、回答が一方に集中しているわけではない。つまり、個人差が相対的にみられる学習方法である。

- ①できるだけ暗記しようとする(56.5%) 対 できるだけ考えようとする(42.9%)
- ②復習中心(58.6%) 対 予習中心(40.7%)
- ③わからないところは、先生や友だちに聞く(63.5%) 対 わからないところは、自分で考える(35.6%)
- ④書きながら覚える(64.7%) 対 読んだり、しゃべりながら覚える(34.6%)
- ⑤やさしい問題を数多く解く(66.3%) 対 難しい問題をじっくり考える(32.7%)
- ⑥問題集中心(69.9%) 対 参考書中心(29.3%)

特に暗記型か熟考型か(上記①)については、暗記型が1割強多いものの、回答が比較的拮抗している。きびしい受験状況のなかで、高校生の多くが断片的な知識の丸暗記に追われているかのような俗的意見があるが、高校生の学習のタイプからみると、妥当ではない。

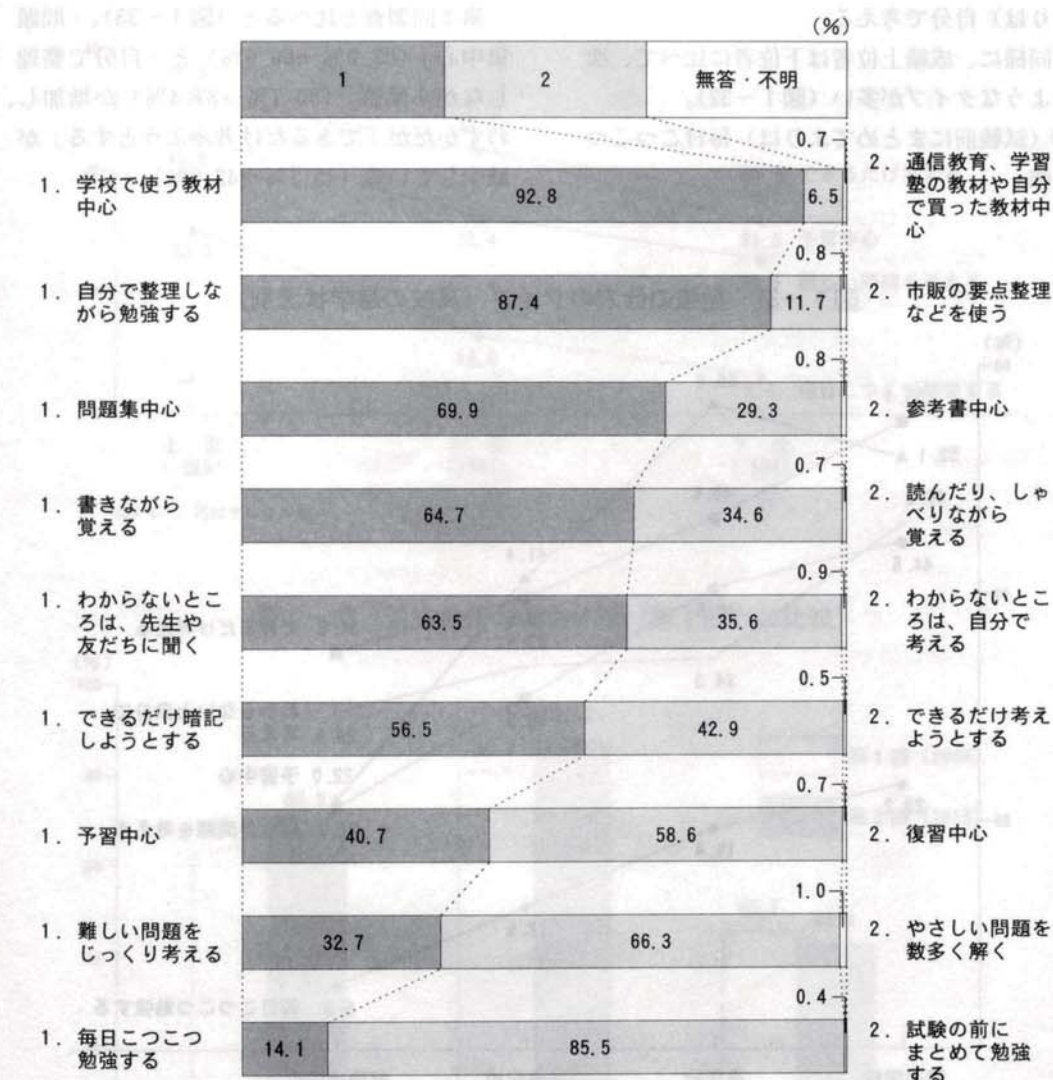
高校生の学習の状況を一枚岩的にとらえてしまうのは危険である。

高校の進学状況別にみると、図1-31のような特徴がある。項目によって多少の変化が

あるものの、概して進学者の多い高校で相対的に多いのは次のような勉強の仕方のタイプである。

- ①(試験前にまとめてよりは)毎日こつこつ

図1-30 勉強の仕方のタイプ



注) サンプル数は2615人。

- 勉強
- ② (できるだけ暗記するよりは) できるだけ考える
 - ③ (復習中心よりは) 予習中心
 - ④ (やさしい問題を数多く解くよりは) 難しい問題をじっくり考える
 - ⑤ (わからないところは先生や友だちに聞くよりは) 自分で考える

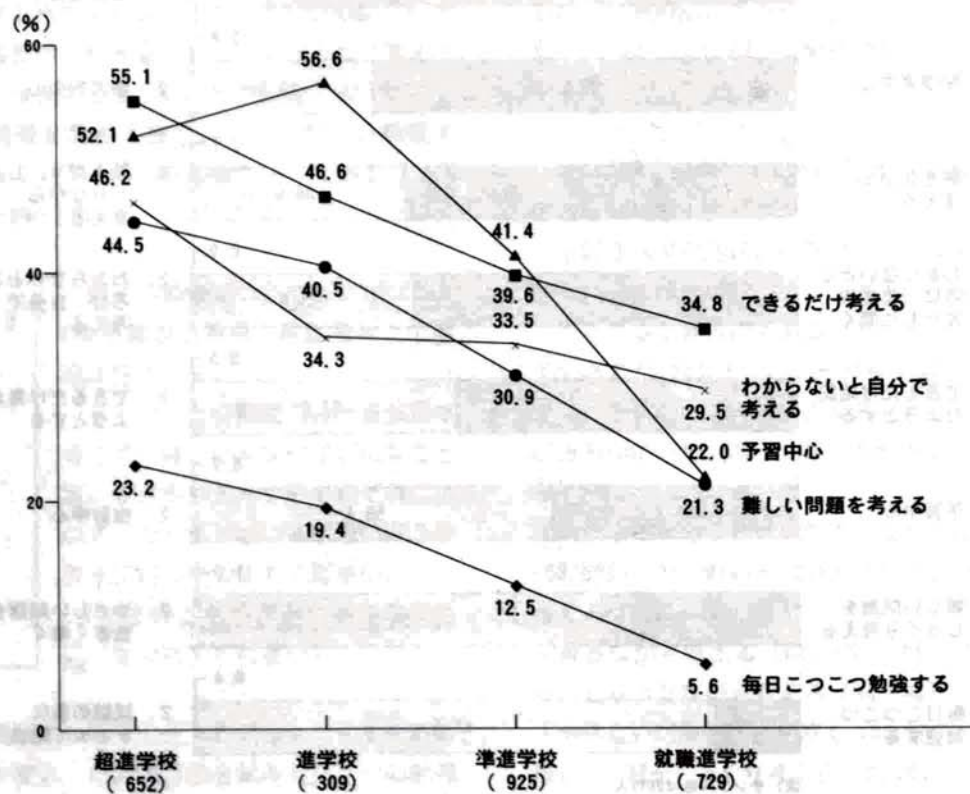
同様に、成績上位者は下位者に比べて、次のようなタイプが多い(図1-32)。

- ① (試験前にまとめてよりは) 毎日こつこつ勉強

- ② (できるだけ暗記するよりは) できるだけ考える
- ③ (市販の要点整理などを使うより) 自分で整理しながら勉強する
- ④ (復習中心よりは) 予習中心
- ⑤ (やさしい問題を数多く解くよりは) 難しい問題をじっくり考える

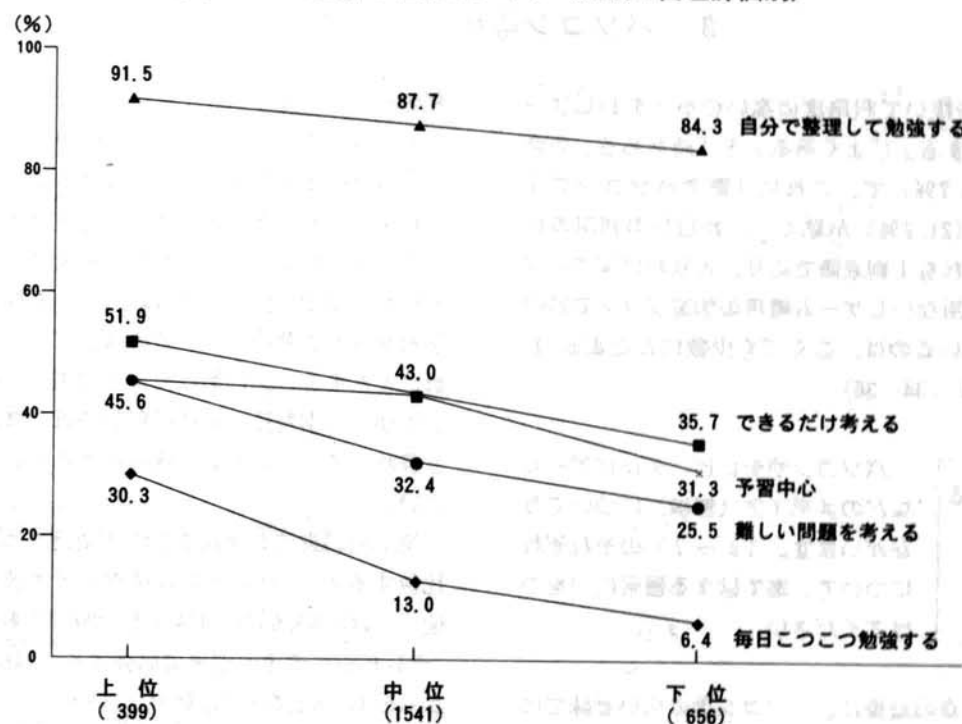
第1回調査と比べると(図1-33)、「問題集中心」(63.9%→69.9%)と「自分で整理しながら勉強」(80.7%→87.4%)が増加し、わずかだが「できるだけ考えようとする」が減少している(45.7%→42.9%)。

図1-31 勉強の仕方のタイプ(高校の進学状況別)



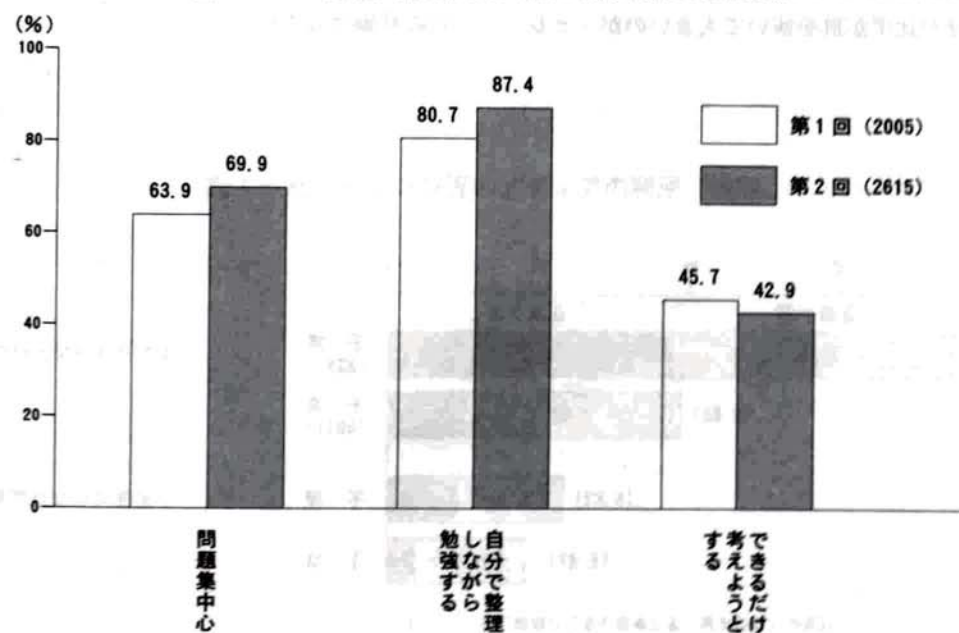
注) () 内はサンプル数。

図1-32 勉強の仕方のタイプ(成績の自己評価別)



注) () 内はサンプル数。

図1-33 勉強の仕方のタイプ(第1回との比較)



注) () 内はサンプル数。

3. パソコン等のメディア利用

【群を抜いて利用度の高いのが「テレビゲームをする」(「よくある」と「時々ある」の合計58.7%)で、これに「家でパソコンを使う」(21.2%)が続く。家でパソコンを使うのは5人に1人であるが、テレビゲームの6割と比べると利用度は低い。これ以外の利用率はいずれも1割未満であり、とりわけ家でパソコン用ないしゲーム機用の学習ソフトで勉強しているのは、ごくごく少数にとどまる。】
(図1-34~36)

Q18

パソコンやテレビ、テレビゲームなどのメディア(機械)についてうかがいます。1)~7)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

本章の最後に、パソコン等の広い意味での電子メディア(テレビゲームを含む)の利用状況についてみておきたい。

7項目を設定して利用度をみたのが、図1-34である。「よくある」と「時々ある」を合わせた比率が群を抜いて大きいのが「テレ

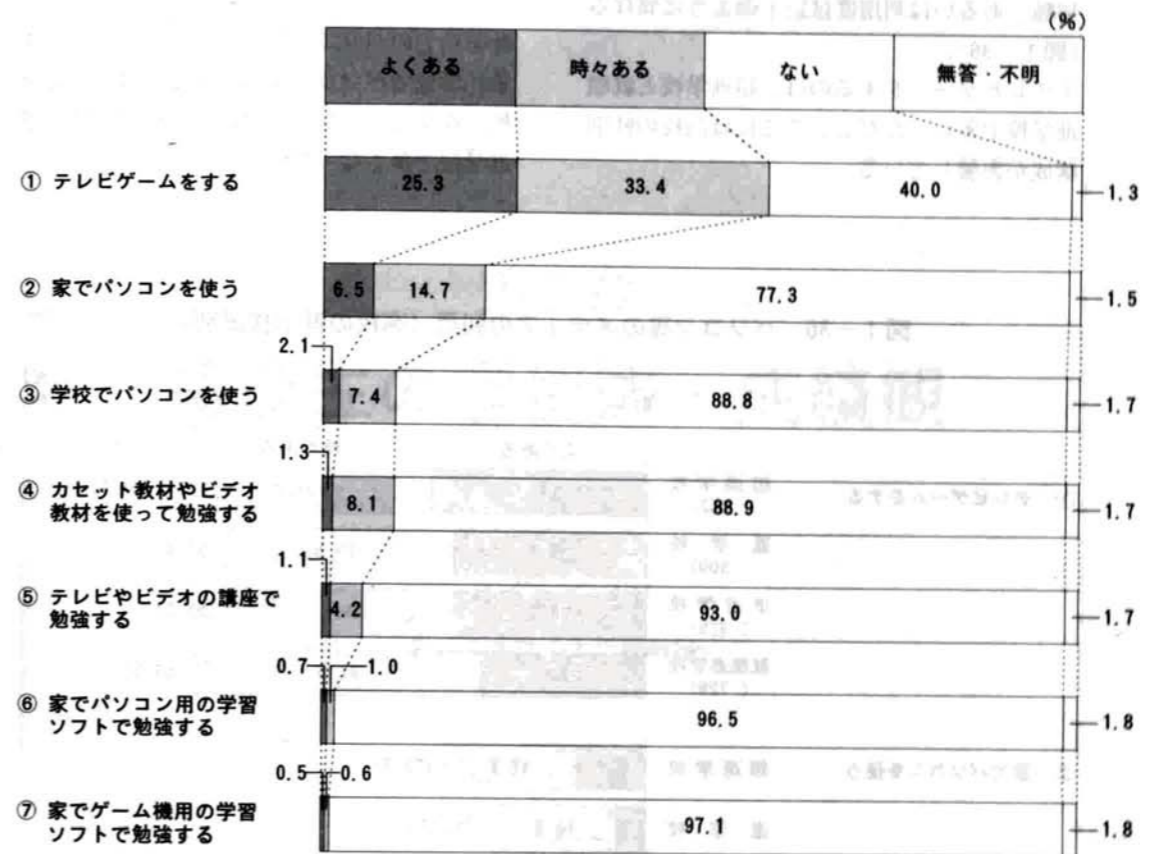
ビゲームをする」(58.7%)で、これに「家でパソコンを使う」(21.2%)が続く。家でパソコンを使うのは5人に1人であるが、テレビゲームの6割と比べると利用度は低い。これ以外の利用率はいずれも1割未満であり、とりわけ家でパソコン用ないしゲーム機用の学習ソフトで勉強しているのは、ごくごく少数にとどまる。図にあげたような電子メディアを使った学習は、高校生段階では、ほとんど普及していないという状況にあるといっ

てよい。
第1回調査でも尋ねていた2項目について比較すると、「カセット教材やビデオ教材を使う」は5.0%から9.4%へと増加したものの、「テレビやビデオの講座で勉強する」は6.4%から5.3%へとむしろ減少している。

こうしたメディアへの接触あるいは利用は、性別によって差がみられる(図1-35)。

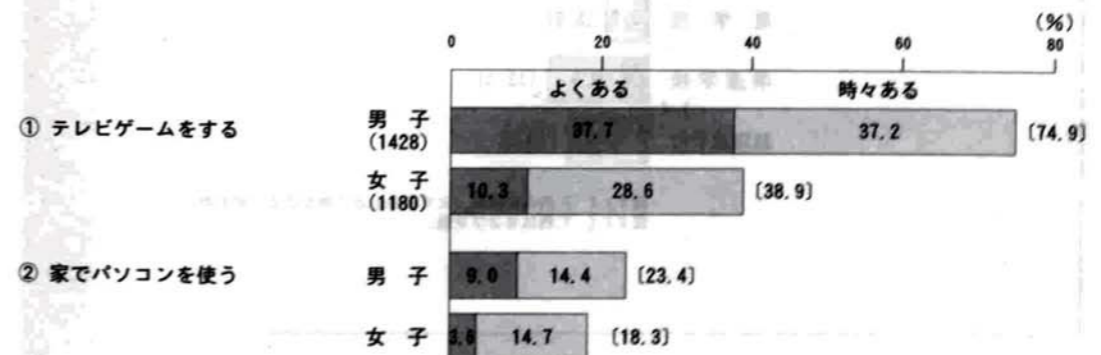
「テレビゲームをする」「家でパソコンを使う」はいずれも男子で多く、特にテレビゲームの性差は大きい。

図1-34 パソコン等のメディアの利用



注) サンプル数は2615人。

図1-35 パソコン等のメディアの利用(性別)



注1) () 内の数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
注2) () 内はサンプル数。

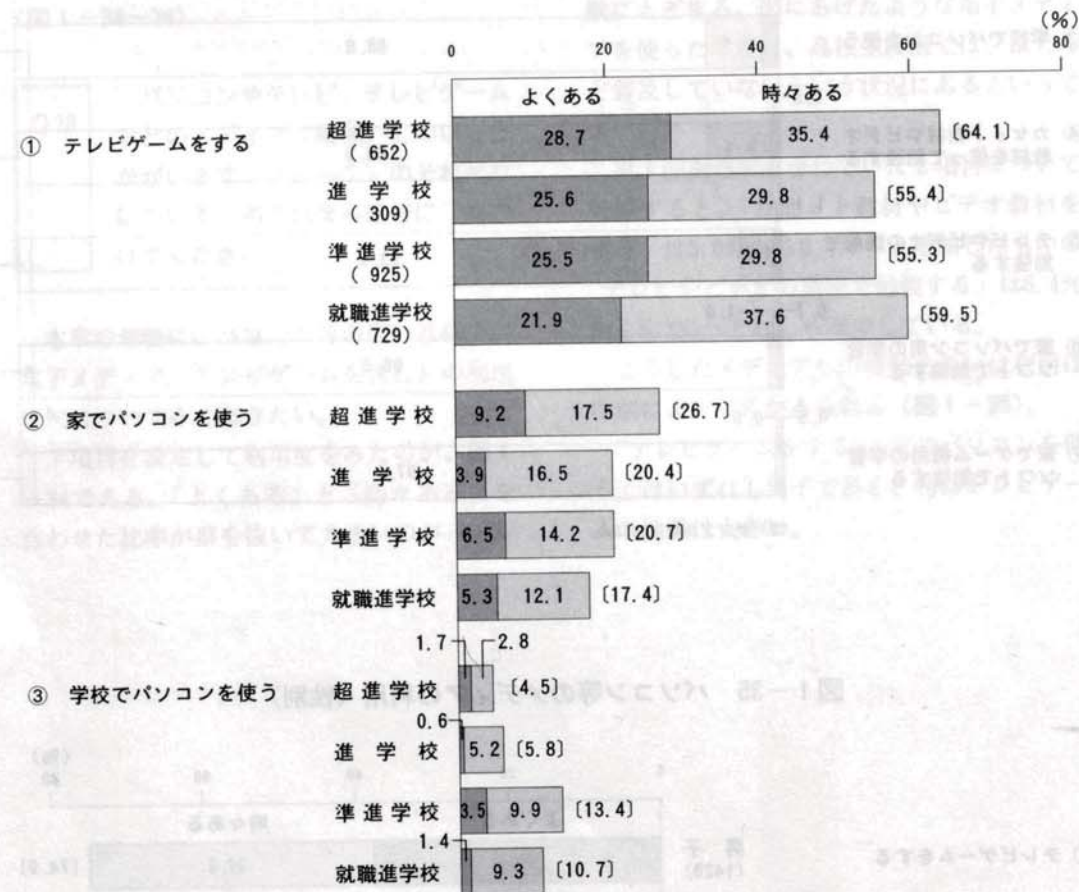
高校の進学状況によっても、メディアへの接触、あるいは利用度は以下のように異なる(図1-36)。

①テレビゲームをするのは、超進学校と就職進学校で多い。ただし、ここには高校の性別構成が影響している。

②家でパソコンを使うのは、おおむね進学者が多数を占める高校で多い。

③学校でのパソコン使用率は、傾向を異にする。学校でパソコンを利用する者は、超進学校と進学校で少なく、就職進学校や、特に準進学校で多くなっている。

図1-36 パソコン等のメディアの利用(高校の進学状況別)



注1) () 内の数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
注2) () 内はサンプル数。